

アクサ損害保険株式会社 PRESS RELEASE

2014年11月28日

アクサ損害保険株式会社 2014年度第2四半期の主要業績のお知らせ

アクサ損害保険株式会社(本社:東京都台東区、代表取締役社長 CEO: 藤井 靖之)の、2014年度第2四半期(2014年4月1日~2014年9月30日)の主要業績をお知らせいたします。

	2013年9月期	2014年9月期	増減額/増減率
元受正味保険料	21,355百万円	23,107百万円	1,751百万円 (8.2%)
正味収入保険料	16,321百万円	17,716百万円	1,395百万円 (8.5%)
正味支払保険金	8,998百万円	9,560百万円	561百万円 (6.2%)
正味損害率	63.8%	62.2%	△1.6ポイント
正味事業費率	18.9%	18.7%	△0.2ポイント
保険引受利益	2,022百万円	2,011百万円	△11百万円 (△0.5%)
経常利益	2,163百万円	2,207百万円	43百万円 (2.0%)
中間純利益	2,172百万円	2,282百万円	109百万円 (5.1%)

	2014年3月末	2014年9月末	増減額/増減率
単体ソルベンシ-・マージン比率	842.7%	952.4%	109.7ポイント
総資産額	52,501百万円	55,511百万円	3,010百万円 (1.9%)
純資産額	17,556百万円	19,931百万円	2,375百万円 (13.5%)

【2014年度第2四半期(中間期)決算の状況】

元受正味保険料、正味収入保険料

元受正味保険料は主力の自動車保険を中心に新契約件数の増加等により、前年同期比8.2%増の23,107百万円、正味収入保険料は前年同期比8.5%増の17,716百万円となりました。

経常利益、中間純利益

経常利益は保険引受利益が前年同期より減少したものの、資産運用収益等の増加により、前年同期より43百万円増加の2,207百万円となりました。中間純利益は前年同期より109百万円増加の2,282百万円となりました。

正味損害率、正味事業費率

正味損害率は、保有契約件数の増加に伴い正味支払保険金は増加したものの、正味収入保険料の増加により前年同期から1.6ポイント低下して62.2%となりました。正味事業費率は正味事業費が主に人員増加による人件費の増加により増加したものの、正味収入保険料の増加により前年同期から0.2ポイント低下して18.7%となりました。

単体ソルベンシー・マージン比率

単体ソルベンシー・マージン比率は前事業年度末より109.7ポイント上昇の952.4%となりました。

業績のハイライト及びトピックスは以下のとおりです。

- 著名人を起用し事故対応力に重点を置いたテレビ広告を2014年1月より放映開始した。当該広告戦略の波及効果もあり、主力商品である「アクサダイレクト総合自動車保険」の新契約件数は、順調に伸展した。
- パートナーシップビジネス拡大の一環として、2014年10月からハーレーダビッドソン専用任意バイク保険の新ブランド「HARLEY | モーターサイクル保険™」の販売を開始した。今後もトップブランド企業とダイレクト型ビジネスモデルの利点を活かした提携を促進する。
- ペット保険は、昨年度実施した商品改定とマスメディアを使用した広告宣伝が奏功し、新契約件数は、大幅な伸びを示した。また、「アクサダイレクト いぬのきもち保険」「アクサダイレクトねこのきもち保険」の商品内容の一部を改定し、賠償事故において被害者との交渉を当社が直接行う「示談代行制度」を導入した。自動車保険で培った経験と専門性を活用し、より一層の安心感とスピーディーな事故解決を目指す。
- お客さまとのコンタクトチャネルとして重要視している公式ウェブサイトの全面リニューアルを行った。今回のリニューアルでは、スマートフォン、タブレットなどのモバイルデバイスに最適化された環境を提供するとともに、「バーチャルエージェント」と呼ばれるウェブ上の仮想オペレーターを導入するなど、お客さまの利便性向上を重視した。今後もお客さまのインターネット端末の利用動向に合わせたデジタル化を推進する。
- 修理費・部品代の上昇や大型台風の到来による損害率の悪化要因があったものの、自動車保険とペット保険の加入増による堅調な収入保険料の伸びと適切な経費管理を進めた結果、堅固な収益力を維持している。これは顧客への強固な支払余力（ソルベンシー・マージン）を維持するとともに、持続性のある投資を可能にし、会社をさらに成長させる推進力とすることができる。

重要

本業績は日本の会計基準に基づくものであり、AXA グループに連結する際に用いる IFRS(国際財務報告基準)ベースの数値とは異なります。

アクサ損害保険について

アクサ損害保険株式会社は、1999年7月より営業を開始し、現在は主に自動車・バイク保険、ペット保険を販売している AXA のメンバーカンパニーです。個人のお客さまを対象とした「アクサダイレクト総合自動車保険」は好調な売上を続け、保有契約件数は95万件を超えています。2012年11月には、ダイレクト系損保*¹としては業界初*²、自動車保険の新特約「地震・噴火・津波危険『車両全損時一時金』特約」を販売開始するなど、商品の拡充を図っています。

*¹ 自動車保険を主にダイレクト販売している損害保険会社をいいます。

*² 2012年11月当社調べによります。

AXA グループについて

AXA は世界 56 ヶ国で 15 万 7,000 人の従業員を擁し、1 億 200 万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく 2013 年度通期の売上は 912 億ユーロ、アンダーライング・アーニングス(基本利益)は 47 億ユーロ、2013 年 12 月 31 日時点における運用資産総額は 1 兆 1,130 億ユーロにのびます。AXA はユーロネクスト・パリのコンパートメント A に上場しており、AXA の米国預託株式は OTC QX プラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)や FTSE4GOOD などの国際的な主要 SRI インデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。詳細は www.axa.com をご参照ください。

～本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします～

アクサ損害保険株式会社 担当:渡邊

電話:03-4335-8817 FAX:03-4335-8561

URL : www.axa-direct.co.jp



アクサ損害保険株式会社

redefining / standards

(参考資料-種目別保険料、保険金)

元受正味保険料

(単位:百万円)

種目	期別	前会計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)		当会計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	
		金額	増減率	金額	増減率
火災保険		0	-	-	△ 100.0
海上保険		-	-	-	-
傷害保険		417	△ 6.0	371	△ 10.9
自動車保険		20,639	6.4	22,280	7.9
自動車損害賠償責任保険		-	-	-	-
その他の		298	18.7	454	52.5
合計		21,355	6.2	23,107	8.2

正味収入保険料

(単位:百万円)

種目	期別	前会計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)		当会計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	
		金額	増減率	金額	増減率
火災保険		0	△ 31.6	0	△ 18.2
海上保険		-	-	-	-
傷害保険		350	△ 5.2	315	△ 9.9
自動車保険		15,433	6.3	16,676	8.1
自動車損害賠償責任保険		238	16.7	268	12.5
その他の		298	18.7	454	52.5
合計		16,321	6.4	17,716	8.5

正味支払保険金

(単位:百万円)

種目	期別	前会計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)		当会計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年9月30日)	
		金額	増減率	金額	増減率
火災保険		-	-	-	-
海上保険		-	-	-	-
傷害保険		208	10.0	165	△ 20.7
自動車保険		8,459	6.5	8,961	5.9
自動車損害賠償責任保険		215	9.3	234	9.1
その他の		115	15.0	197	71.8
合計		8,998	6.7	9,560	6.2

【用語の解説】

○元受正味保険料

契約者から直接受け取った保険料であり、損害保険会社の売上規模を示す基本的な指標です。

○正味収入保険料

元受正味保険料に、保険金支払負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との保険契約のやりとり(受再保険料及び出再保険料)を加減した保険料であり、損害保険会社の収入規模を示す指標のひとつです。

○正味損害率

正味収入保険料に対する支払った保険金の割合です。

正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷(正味収入保険料)

○正味事業費率

正味収入保険料に対する保険会社の保険事業上の経費の割合です。

正味事業費率=(諸手数料及び集金費+保険引受に係る営業費及び一般管理費)÷(正味収入保険料)

○単体ソルベンシー・マージン比率

単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。